


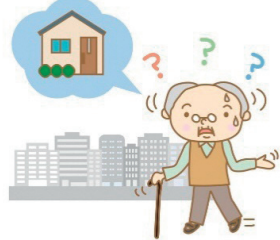

羽島市 おれんじケアパス

認知症の進行に合わせた「家族の気持ち」や「ケアのポイント」

この認知症ケアパスは認知症の進行状況にあわせて、認知症のある方やそのご家族などが利用できる医療・介護サービスをまとめたものです。

認知症の原因となる疾患やお体の状況などにより、経過は異なりますが、今後を見通す参考にしてください。

※症状の進行には個人差があります。

	健康	認知症の疑い	ひとりで生活ができる	見守りが必要	手助け・介護が必要	常に介護が必要
認知症の進行	—	<ul style="list-style-type: none"> 物忘れが気になる お金の管理や買い物、書類の作成などはひとりでできる 	<ul style="list-style-type: none"> 物忘れにより生活のしづらさがある 日付や時間がわからなくなる 買い物やお金の管理にミスがある 日常生活はなんとか行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物やお金の管理ができない 服薬管理ができない 電話の対応や訪問者の対応が困難 道に迷うことがある 	以下のことに手助け・介護が必要 <ul style="list-style-type: none"> 着替え ・ 入浴 食事 ・ 排泄 整容（洗面、歯磨き、化粧） 	<ul style="list-style-type: none"> 車いす・ベッドでの生活が中心 食事をとることが困難 言葉による意思表示、理解が困難
本人の様子	—	<ul style="list-style-type: none"> □物忘れの自覚がある □ヒントがあれば思い出せる □あれ、それが多くなる □約束を忘れることがある 	<ul style="list-style-type: none"> □出来事を忘れる □小銭での支払いができない □日時がわからない □やる気がでない □物がなくなる □同じことを何度も聞く 	<ul style="list-style-type: none"> □直前のことを忘れる □買い物ができない □季節や場所がわからない □季節にあった服が選べない □家族と口論になる □怒りっぽくなる □火の消し忘れがある □薬を間違えて飲む □たびたび道に迷う 	<ul style="list-style-type: none"> □着替え、食事、排泄が上手にできない □家族の顔や使い慣れた道具がわからない □食べられないものを口に入れる □道に迷って家に帰れない 	<ul style="list-style-type: none"> □歩行が困難 □介助にて椅子に移動 □ベッドの上での生活が中心 □言葉を話すことができない □言葉によるコミュニケーションが難しい 

家族の気持ち

●否定、年齢のせい、言えばできるはず

●混乱 ●認知症状に振り回されてしまう、自分だけがなせ、拒絶 ●介護の疲れ

●割り切り ●受容 ●どう看取るのか

家族の心がまえ	<ul style="list-style-type: none"> ・早めに地域包括支援センターへ相談しましょう。 ・認知症や介護について学ぶ機会を持ちましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・腹が立ってあたりまえ。一人で抱え込まずに、介護仲間を作りましょう。 ・認知症カフェや相談機関等、自分の気持ちを話せる場所を作りましょう。 ・各制度のサービスを申請し、早めに介護サービスを利用して、頑張りすぎない介護を心がけましょう。 ・身近な人には認知症について伝え、理解者や協力者をつくりましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護者あつての介護です。まずは自分の健康を大切にしましょう。 ・今後のことについて検討し、必要に応じた情報収集をしましょう。 ・終末期のケアについて、医師やケアマネジャー等と相談し、どういった対応が必要か確認しておきましょう。
---------	--	--	--

裏面へ





ケアのポイント	1. かかりつけ医や地域包括支援センターに相談しましょう。地域包括支援センターは介護や福祉、認知症のなんでも相談窓口です。	2. 介護保険を申請するなど安心した生活を送れる環境を整えましょう。 3. 薬による治療や社会参加の機会を持ち、進行を予防しましょう。	4. 本人にあった生活が送れるよう、介護保険サービスを利用しましょう。地域での見守りや支えあいも大切になります。 5. 行動心理症状(はいかいかや興奮など)や身体合併症(肺炎など)の治療は、認知症疾患医療センターなどの専門機関で受けられます。	6. 着替え、入浴、食事、排泄などの介護が増え、身体合併症を起こしやすくなります。穏やかに過ごせるよう、訪問介護や在宅での診療、看護など、医療と介護が連携したサービスが受けられます。
---------	---	--	--	---

本人・家族を支援する主な制度やサービスなど	相談窓口	地域包括支援センター / 認知症コールセンター	ケアマネジャー	相談窓口	
	医療	かかりつけ医 ・ かかりつけ薬局		【訪問診療】	医療
		認知症疾患医療センターなどの専門医療機関 (もの忘れ外来/精神科/神経内科)			
		訪問看護サービス			
	歯科医師・歯科衛生士			【訪問歯科診療】	
	家族	認知症カフェ、認知症の人と家族の会			家族
	生活支援	地域での見守りや支えあい活動、民生委員、認知症サポーター			生活支援
生活支援サービス (配食サービス/緊急通報システム)、救急医療情報キット配布事業、日常生活自立支援事業、成年後見制度		徘徊高齢者検索システム、見守りSOS事業			
予防	介護予防教室、趣味や特技を活かせる場 (ボランティア活動/シルバー人材センター)、地域での交流の場、認知症カフェ、サロン、老人クラブ			予防	
介護福祉		ホームヘルプ・デイサービスなどの介護保険サービス	「通い」を中心に、「訪問やお泊り」を組み合わせ提供する「小規模多機能型居宅介護」もあります。	介護福祉	
住まい	自宅	【福祉用具・住宅改修】		住まい	
	有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅など		グループホーム		
			特別養護老人ホーム		

【相談先】

羽島市地域包括支援センター	394-2521
羽島市役所 高齢福祉課	392-1111

* 認知症疾患医療センター

公益社団法人岐阜病院	247-2118
医療法人静風会大垣病院	0584 (75) 5031

* その他相談機関

公益社団法人 認知症の人と家族の会岐阜県支部	214-8690
若年性認知症コールセンター	0800 (100) 2707